

沖縄プロジェクトレポート

東京土建渋谷支部 書記 工藤真由

2018年12月15日土曜日、西部ブロック書記局の沖縄研修旅行最終日。那覇空港へ向かうバスの中で目黒支部の皆さんと泡盛を飲んでいたら、堀田書記から「目黒支部は6月27日から29日にも沖縄平和ツアーをするの。真由ちゃんも参加しませんか？」と声をかけてもらいました。「行きたいです。行けるかな。予定空いてる。行けるかも」とその時答え、それぞれ東京へ帰りました。

2019年5月1日水曜日、メーデー。夏の海にいるような、日差しの強い代々木公園のブルーシート。堀田さんが渋谷支部のエリアを通りかかった際、「沖縄行けるでしょう？」と聞いてくれました。「休み取って、本当に行こうかな。良いですよ？休みは自由ですよ」と一緒にいた主任書記に言いました。

6月10日月曜日、本部教育宣伝部主催の担当書記研修。目黒支部の奥山書記も参加していました。「目黒支部の沖縄ツアーって、具体化されていますか？一応休みを取って、参加する気分でいたんですが、私きちんに行くって言ってなくて」と話しかけた所、奥山書記はものすごい勢いで対応してくれました。

6月27日木曜日～29日土曜日、沖縄滞在。

沢山泣いて、沢山笑った、心が苦しくなった、切なくなった、今でも涙が出る。怒りと無力さと前向きさと、いろいろな感情です。その理由を書きます。

普天間基地の見える丘 嘉数高台



恩納村のホテルから



夕方のプールサイド



沖縄は日本の土地の0.6%しかありません。その小さな島に、日本各地にある米軍専用施設面積の70.6%が集中しています。基地がある事の危険を、不安を、沖縄に住む人々は常に負わされています。「基地のおかげで働けている人がいる」というのは古い神話です。数々の検証で、基地がない方が経



済発展する事が証明されている。

なぜ沖縄だけがこんなに負担を？戦争で地上戦になったから？それで住民が土地を奪われたから？なぜ日本は沖縄を切り離したの？なぜ日本復帰の時に基地を撤去出来なかったの？

答えられるひとはどれくらいいるだろう。日本人の大好きな観光地の話です。

水色のゼリーみたいに透明な海、白い珊瑚の砂浜だった大浦湾。今、山の赤土が削られ、投入され、私達本土の人間が見慣れた茶色い砂浜に変容しています。埋め立てて米軍基地を作るために。



辺野古ゲート前の座り込み

基地の建設をとめたい、現場に土砂を運ばせたくない、少しでも工事を遅らせたい。基地建設に関わる事すべて邪魔したい。沖縄県民投票で70%の県民がもうやめてと言った。それでも進めるなんて狂ってる。辺野古ゲート前に座り込みました。もちろん警察機動隊から排除されました。私達は非武装で、非暴力で、ちっぽけです。力の差は明らかです。

その翌日には船からも抗議しました。参加者が24人だったから、13人乗りの平和丸に交代で乗って。いくつもの小さなカヌーが埋め立てに抗議するために立ち入り禁止区域へ入ろうとしていました。海上保安庁が黒い小型ボートを自在に操り、猫が小さな獲物で遊ぶようにカヌーを捕まえていた。堀田さんが何度も何度も繰り返し「工事をやめてください」「カヌー頑張れ」と叫び、私は涙がとまらなかった。自分の力のなさに茫然として、脱力感、無力感が凄かった。でも、やっても意味がないならやらなくても同じ、とは思えませんでした。自分に嘘はつけない、嫌なものは嫌だと言い続けたい。

綺麗な海が埋め立てられていく光景の中に、この声があり、繰り広げられている行動があります。



カヌーが境界線を越える



海上保安庁と対話



平和丸を待つ豊さん

沖縄県警の機動隊の青年が、私達の抗議行動に対して「邪魔じゃないですよ。本当に」と言いました（明日は観光ですか？と聞かれ、また邪魔しに来





ます、と答えた流れです)。海上保安庁の責任者からは「今日はとても暑いので体調に気を付けて行動してください」と言われました。

沖縄の、非暴力の抗議行動の歴史を感じました。私達は基地の建設をやめさせたいだけで、現場の人間と喧嘩をしたくないじゃない。米軍基地建設を進めるために彼らが沖縄県警や海上保安庁に就職したとは思えませんでした。

産卵場所を追われたウミガメ。藻場を無くして息絶えたジュゴン。東京に住む私達以上に、辺野古の海の動物たちを身近に感じているはずの地元の彼らはどんな気持ちなんだろう。



本部空港から伊江島へ



おばあの話聞きに平和資料館へ



当時は基地内にあった団結小屋

沖縄戦で最初に攻められた島、伊江島（いえじま）で、おばあは私達に「平和について根こそぎ学習しろ」と言いました。平和の武器は知識、理解は力だと。「私達戦争体験者はどんどん死んでいく。でも皆さんは私達の声を聞いた。体験した。その体験を伝えていける」。



勝間田さん



伊江島の基地



桑さん

沖縄はずっと優しくかった。初日から虹を見せてくれた。世界で最も危険な米軍基地と言われる普天間基地の見える丘、嘉数（かかず）高台公園の地面に無数にあったカタツムリの殻。子どもみたいにしゃがんで土を見つめる時特有の凝縮された時間の流れ。夜、食堂で宴会をしたら料理が余ってしまって、解散後も美味しいしもったいないから残って食べていたら、閉店時間なのに強面のおじさんが適当におつまみを作って持ってきてくれた。伊江島の





土産物屋で特産のピーナッツを沢山買ったら、レジのおばさんがさらに追加のピーナッツを「これも入れておくからね」と言ってお土産にくれた。最終日の、沖縄らし過ぎる、笑うしかないような強烈な日差し。夢みたいな島。



嘉数高台のカタムリ



初日の食堂



最終日のバーベキュー

沖縄の土地の15%を米軍基地が占めている。その15%を0%にしたい。24人の仲間が全員一緒に同じ体験をしました。毎晩朝方まで飲んで、語って。もう戦友の気分です。私達の体験を誰かに伝えて、その伝えられた誰かがまた誰かに伝えて、平和への歴史を作る。

連れて行ってきて、ありがとうございました。また沖縄で会いましょう。



左から、米軍基地、埋め立てられていく辺野古の海、埋め立てに抗議するカヌーの方が乗ってきた軽トラック

